

第1回江別市子どもの読書活動推進計画策定懇話会 議事録

- 1 日 時 平成30年6月11日（月）午前10時00分～午前11時20分
- 2 場 所 江別市教育庁舎 大会議室
- 3 出席者 副会長 加藤 広子
委員 多田 初男
委員 松山 和子
委員 宮崎 善昭
委員 寺田 さゆり
委員 藤岡 章一
- 4 事務局 教育長 月田 健二
教育部次長 伊藤 忠信
情報図書館長 山本 則行
情報図書館主査 山田 容示
- 5 傍聴者 なし

発言者	会議録（要旨）
伊藤次長	<p>お忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。 教育委員会教育部次長の伊藤といいます。会長が決まるまでの間、進行を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。 ただいまより、第1回子どもの読書活動推進計画策定懇話会を開催いたします。 それでは早速、次第の2 「委嘱状の交付」ということで、委員の皆様、教育長から委嘱状を交付いたしたいと存じます。</p>
教育長	<p style="text-align: center;">— 委嘱状の交付 —</p>
伊藤次長	<p>つづきまして、次第の3 教育長よりご挨拶をさせていただきます。 それでは、教育長お願いいたします。</p>
教育長	<p>改めまして、皆様おはようございます。 教育長の月田です。懇話会の開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。 まずは、お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。 ただいま委嘱状を交付いたしました、任期の期間中、委員としてよろしく願いいたします。 現在、教育委員会では、第3期子どもの読書活動推進計画をはじめ、第2期江別市学校教育基本計画、第9期江別市社会教育総合計画、第6期江別市スポーツ推進計画など、平成31年度からの5年間の活動推進計画づくりをおこなっているところであります。 私も、情報図書館や、学校の図書室にお邪魔することがありますが、子どもも大人も読書活動は非常に盛んだなと思ってならないのですが、現在日本を含め世界中の子ども達の読解力が非常に落ちているということで、世界中が苦慮しているということでもあります。 それはツイッターやラインなどのいわゆるソーシャルネットワーキングサービスにのめり込む若者が、短い文章しか作らないというようなことで、文章を読まなくなってきたということでもあります。 そのことは、若い世代の本離れに表れていまして、全国大学生協の2015年度の調査によりますと、1日の読書時間がゼロの大学生が45.2%で、12年前の34.5%から徐々に増加しているということになっております。 また、高校生も同様で、「全国学校図書館協議会」の2016年度の調査では、1カ月に1冊も本を読まない生徒が、2013年度よりも12.1ポイント増えて、57.1%に上昇したと統計が示されております。 友達へのラインのメッセージの返信は、「了解」ということを「り」の一文字で済ませるといったやり方では、読解力が身につく訳はございません。</p>

<p>教育長</p>	<p>脳科学者の方々は、脳が発達する18歳ぐらいまではスマホの使用を制限して、文章を読む環境を作るべきだと警鐘を鳴らしております。</p> <p>しかし、これは子どもたちに限った現象ではありません。ある大学の調査によりますと、保育園の先生が書くお便りが、2行以上あると、読まないという親が一定程度いるということで、保育園の方でも苦慮しているとのことであります。</p> <p>江別市からは、そのような子どもたち、若者、大人が出現しないようしなければならぬと思っているところであります。</p> <p>そのためには、子どもの読書活動推進計画が、非常に重要だと考えておりますので、皆様にはどうか忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。</p>
<p>伊藤次長</p>	<p>教育長につきましては、このあと他の公務がありますので、ここで退席させていただきます。</p> <p>次に、次第の4、委員の紹介に入りたいと思います。お手元の資料1にある名簿の順番に自己紹介をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">— 委員 自己紹介 —</p>
<p>伊藤次長</p>	<p>次に、次第の5、教育部の職員の紹介をさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">— 教育部職員 自己紹介 —</p>
<p>伊藤次長</p>	<p>次に、6 会長及び副会長の選出に入ります。</p> <p>配付しております、資料2にあります、設置要綱の中で第5条の規定により、会長及び副会長は構成員の互選により決定することとなっております。</p> <p>会長、副会長の選出について、どのようにいたしましょうか。お諮りいたします。</p>
<p>多田委員</p>	<p>事務局で案があれば、一任いたします。</p>
<p>伊藤次長</p>	<p>事務局に案があればとのご発言ですが、皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（異議なし）</p> <p>それでは、事務局よりお願いします。</p>
<p>山本館長</p>	<p>会長には、本日欠席ではございますが、札幌学院大学の准教授であり、本市の社会教育委員の会議の委員でいらっしゃいます、社会教育に関する</p>

山本館長	<p>る知識、見識の豊かな井上委員をお願いしてはと思います。</p> <p>また、副会長には、現職の校長先生であり、学校現場を熟知されております、江別市小中学校長会から選出されている加藤委員をお願いしてはどうかと思います。</p>
伊藤次長	<p>ただいま、事務局から会長には井上大樹委員、副会長には加藤広子委員、という案がありました、よろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>異議なしとのご発言がございましたので、会長は井上委員、副会長は加藤委員として決定させていただきます。</p>
伊藤次長	<p>それでは、加藤委員、正面の席へお移りください。</p> <p style="text-align: center;">— 副会長 着席 —</p>
伊藤次長	<p>議事に入ります前に、ただいま互選されました、加藤副会長より、ご挨拶をお願いしたいと存じます。</p>
加藤副会長	<p style="text-align: center;">— 副会長 挨拶 —</p>
伊藤次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>会議に移ります前に、2点ほどお話をさせていただきます。</p> <p>まず、この会議の公開について、ご説明いたします。</p> <p>当市では、審議会等の会議は、支障のない限り公開を原則としており、この会議でも傍聴を認めております。</p> <p>もう1点、会議の議事の概要として、発言の内容を発言者の氏名とともに市のホームページ等で公開いたしますので、ご了承願いたいと思います。</p> <p>なお、本日、傍聴者はございません。</p> <p>以上、2点について、注意点としてお知らせさせていただきます。</p> <p>以降の進行につきましては、副会長をお願いしたいと存じます。</p>

<p>議長 (副会長。以下記載略)</p>	<p>次第に従い、進めさせていただきます。 7議題(1)会議の運営について、事務局より説明願います。</p>
<p>事務局 (山本館長)</p>	<p>会議の運営についてご説明をする前に、本日、配付しました資料の確認をいたします。 本日、配付しました資料は、会議の次第、右上に資料1とあります懇話会委員名簿、資料2の、懇話会設置要綱、資料3懇話会の会議ルールに関する取扱い、資料4子どもの読書活動推進計画の策定について、資料5計画の策定スケジュール、資料6懇話会の開催予定、資料7現行の計画である第2期の推進状況報告書、最後に、資料8北海道の第三次及び第四次計画と江別市の現行の計画の体系図、という資料でございます。そして、別冊資料として、江別市の現行の計画「第2期江別市の子どもの読書活動推進計画」と、「北海道子どもの読書活動推進計画〈第4次計画〉」でございます。 以上の11点でございます。 不足資料がありましたら、お知らせいただきたいと思います。 次に、懇話会設置要綱についてご説明いたします。 お配りしました資料の右上に、資料2と書かれた「江別市子どもの読書活動推進計画策定懇話会設置要綱」をご覧ください。 本懇話会は、この江別市子どもの読書活動推進計画設置要綱に基づいて設置したものでありまして、所掌する事項は、第2条にありますように、次期の江別市子どもの読書活動推進計画の策定に当たり、施策や事業などの具体的な取り組みについての意見交換等を行うこととあります。 懇話会は、公募による市民の方2名以内、学識経験者及び関係者5名以内、で構成することとされており、任期は、平成31年3月31日までであります。 懇話会には、会長と副会長を、それぞれ1名置くこととしており、先ほど、井上会長、加藤副会長を決めたところであります。 次に、会議運営の取扱いについてであります。懇話会の会議運営について、資料3に記載する取り扱いとすることで、よろしいかをお伺いいたします。 一つに「会議は公開とする」ということであります。意見を伺う内容が、個人情報などが含まれるものではないことや、公開することによって会議の運営に支障が生ずるものではないことから公開とする、ということとあります。 また、「2 会議開催の事前公表」ということで、会議開催前に「会議開催のお知らせ」を市のホームページに掲載して、あらかじめ公表する、ということとあります。 また、会議は公開とするということで、「3 会議の傍聴等」にありますように、傍聴者の定員は、会議の都度、会場等を勘案して事務局で定め、傍聴希望者が定員を超えるときは、先着順に決定する、ということとあります。 傍聴者に対しては、4にありますように、閲覧により、皆さんに配付する資料と同じものを提供する、ということとあります。 会議の内容については、5と6にありますように、会議録を作成して公</p>

<p>事務局 (山本館長)</p>	<p>表する、ということでありませう。</p> <p>会議録は、発言の要旨を記載した要点を記録することとし、内容について会長の確認を得た後に、市のホームページに掲載するなどの方法により公表する、ということでありませう。</p> <p>また、7にありますように、委員名簿も市のホームページに掲載するなどの方法により公表する、ということでありませう。</p> <p>以上、懇話会の会議運営について、資料3に記載する取り扱いとすることと、よろしいでしょうか、お伺いをいたします。</p>
<p>議長</p>	<p>ただいまの事務局の説明に、質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。</p> <p>(なし)</p> <p>それでは、会議の運営については、事務局の説明のとおり承認することとよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>会議の運営については、事務局の説明のとおり承認いたしました。</p> <p>次に、(2) 江別市子どもの読書活動推進計画の策定及びスケジュールについて、事務局より説明願います。</p>
<p>事務局 (山本館長)</p>	<p>それでは、江別市子どもの読書活動推進計画の策定及びスケジュールについて、ご説明いたします。</p> <p>お配りしました、資料4「江別市子どもの読書活動推進計画の策定について」をご覧ください。</p> <p>はじめに、江別市子どもの読書活動推進計画の策定の根拠でありませうが、江別市子どもの読書活動推進計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、子どもたちが自主的に読書活動を行うことができる環境整備の推進に向けて、国や北海道の推進計画を基本に、本市における子どもの読書活動の推進状況等を踏まえ、策定する計画でありませう。</p> <p>次に、計画の位置付けでありませうが、国の第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」や、北海道が策定した「北海道子どもの読書活動推進計画」第四次計画を基本に、「江別市総合計画」が示す分野別の政策「まちづくり政策」に沿って策定される子どもの教育分野の個別計画として位置付けられるものでありませう。</p> <p>また、「江別市教育大綱」をはじめ、江別市学校教育基本計画、「江別市社会教育総合計画」、「江別市スポーツ推進計画」、「江別市子ども・子育て支援事業計画」など各種計画との整合性を図るものでありませう。</p> <p>計画期間でありませうが、現行第2期の計画期間が、平成26年度から平成30年度までの5年間となっており、第3期の計画期間は、2019年度から2023年度までの5年間とするものでありませう。</p>

<p>事務局 (山本館長)</p>	<p>こちらの方を西暦にて表現いたしましたのは、平成のあとの年号が未定となっているためでございます。</p> <p>策定方法であります、市の関係部署の課長職を中心に構成する庁内会議で検討し、本懇話会におきまして意見交換等を行い、次期計画案の策定を行います。また、パブリックコメントによる市民意見を反映し、計画策定を進めてまいります。</p> <p>策定スケジュールであります、別紙、資料5の策定スケジュールのとおり、7月の懇話会において、計画素案をご審議いただく予定であります。</p> <p>また、9月には、パブリックコメントの実施を経て、12月の懇話会において、計画最終案の審議。翌31年1月に教育委員会において、計画最終案の審議、決定をいただく予定であります。</p> <p>なお、お配りしました資料6に、懇話会の開催予定を抽出して記載していますので、ご参照ください。</p> <p>江別市子どもの読書活動推進計画の策定及びスケジュールについて、の説明は以上です。</p>
<p>議長</p>	<p>ただ今の事務局の説明に、質問や確認したいことがあれば、ご発言願います。</p> <p>(なし)</p> <p>それでは、江別市子どもの読書活動推進計画の策定及びスケジュールについて、終わらせていただきます。</p> <p>次に、(3) 江別市子どもの読書活動推進計画の概要及び進捗状況について、事務局より説明願います。</p>
<p>事務局 (山本館長)</p>	<p>江別市子どもの読書活動推進計画の概要及び進捗状況について、ご説明いたします。</p> <p>第2期計画は、平成26年度から本年平成30年度までが計画期間であり、現在、進行している計画です。</p> <p>これから策定する第3期計画は、この第2期計画を基に策定することになりますので、はじめに第2期計画の概要をご説明し、その後に、進捗状況についてご説明いたします。</p> <p>お配りしました、別冊資料「第2期 江別市子どもの読書活動推進計画」の表紙をめくっていただいて、目次をご覧ください。</p> <p>現行の第2期計画は、「第1章 計画策定の趣旨」から「第5章 計画の推進にあたって」までの全5章で構成しております。</p> <p>それぞれの章について、おおよその内容を、ご説明いたします。</p> <p>まず、1ページから4ページまでの、第1章は、「計画策定の趣旨」として、第1期計画から第2期計画の策定までに至った経緯について、国の動向と北海道の動向、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を抜粋して記載しています。</p>

事務局
(山本館長)

次に、5ページから15ページまでの、第2章は、「江別市子どもの読書活動推進計画 第1期の成果と課題」として、第1期の計画で設定した3つの基本目標に対する取り組みについて、目標ごとに、取り組みの成果と課題を記載しています。

次に、16ページ、17ページの、第3章は、「子どもの読書活動推進のための方針」として、第2期計画における3つの基本目標と計画期間について記載し、18ページに、計画の体系として、3つの基本目標と、施策を展開するための8つの推進方策を記載しています。

19ページから24ページまでの第4章は、「子どもの読書活動推進のための取り組み」として、計画を進める取り組みについて、基本目標の推進方策ごとに、「推進の方向性」、「推進に向けた取り組み」を記載しています。

25ページ、26ページの第5章は、「計画の推進にあたって」として、進行管理と成果指標について記載しています。

計画の進行管理は、市の子育て、社会教育、学校教育等の部署の職員で構成される「江別市子どもの読書活動推進委員会」で、進捗状況を把握し検証することとしております。

成果指標は、基本目標ごとに設定し、平成24年度を基準として、平成30年度時点で目標値と比較し、計画の推進状況を評価し、成果や課題の検証を行うこととしています。

第2期計画の概要は、以上でございまして、ご説明いたしました第2期計画は、「北海道子どもの読書活動推進計画」に準拠しながら策定しており、18ページで示した計画の体系は、北海道の推進計画とおおむね同様のものです。

第3期計画についても、本日資料としてお配りしています、北海道の推進計画を基本に、第2期計画の成果と課題を踏まえ策定することとなります。

また、お手元の資料8は、北海道と江別市の計画の体系図を抜粋したものです。左側の北海道の第3次計画と、右側の江別市の現行の第2期計画の体系は、ほぼ同じです。真ん中が北海道の第4次計画の体系図です。参考にご覧ください。

次に、先ほど、第2期計画の第5章の中でご説明いたしました成果指標を基に点検し評価した、江別市子どもの読書活動推進計画の進捗状況についてご説明いたします。

お配りしました、資料7「江別市子どもの読書活動推進計画（第2期）推進状況報告書（点検・評価結果）」をご覧ください。

現計画の進捗状況については、庁内会議の江別市子どもの読書活動推進委員会におきまして、（計画期間の5か年のうち）平成28年度までの指標数値の推移と、目標値との比較等を基に、基本目標ごとに点検し、達成状況を5段階で評価をしております。

表の見方をご説明いたします。

1ページの中ほどの、「1 家庭における読書活動の推進」の成果指標

<p>事務局 (山本館長)</p>	<p>1 「青空子どもの広場」で絵本の読み聞かせを行っている回数」を例にしますと、平成24年度の現状値が40回に対し、平成30年度の目標値は「維持」を表す水平方向の矢印となっています。</p> <p>成果指標では、平成24年度の数値を下回っているため、表の右側の評価欄は「未達成」を表す1の評価としている、ということであります。</p> <p>以下、3ページまで、同様に評価内容を記載しています。</p> <p>次に、同じ基本目標1の「2 地域における読書活動の推進」に向けた取り組みとして、乳児のいる家庭を訪問し絵本を配布する事業を行っており、成果指標を、満1歳未満の乳児をもつ家庭への訪問達成率としています。</p> <p>平成24年度の数値 98%に対し、目標は、取り組みの維持（維持を表す水平方向）としていますが、現状値をわずかに下回っていますが、概ね横ばいで推移しており、評価4で「ある程度達成」としています。</p> <p>次に、2ページの基本目標2「子どもの読書活動を推進するための環境の整備」の、「1 子どもにとって望ましい読書環境づくりの推進」に向けた取り組みとして、情報図書館における児童書の充実を図っており、成果指標を、「1 情報図書館における児童書の冊数」としています。</p> <p>平成24年度の数値 103,708冊に対し、現状値を上回っており、評価5で「達成」としています。</p> <p>同じく、基本目標2の「情報図書館の学校等への支援」の取り組みとして、支援司書による学習支援として、情報図書館の司書が市内小中学校に対し、総合的な学習の時間等に関する選書等の相談に対応しており、成果指標を、「2-①支援司書による「総合的な学習の時間」等への対応件数」としています。</p> <p>平成24年度の数値 20件に対し、現状値を上回っていましたが、減少傾向で推移しており、評価2で「未達成」としています。</p> <p>また、「情報図書館の学校等への支援」のもう一つの取り組みとして、市内小中学校の総合的な学習の時間等の学習支援のため、情報図書館所蔵の資料の貸し出しを行っており、成果指標を、「2-②「総合的な学習の時間」等のために学校へ提供した資料の貸出冊数」としています。</p> <p>平成24年度の数値 525冊に対し、減少傾向にありますが現状値を上回る数値で推移しており、評価4で「ある程度達成」としています。</p> <p>また、基本目標2の中の「3 学校図書館における取り組み」として、学校での朝読書推進のため、情報図書館所蔵の図書の貸出を行っており、成果指標を、「3-①情報図書館から学校に対する朝読書用図書の貸出冊数」としています。</p> <p>平成24年度の数値 4,850冊に対し、現状値を上回って、増加傾向で推移しており、評価5で「達成」としています。</p> <p>また、「学校図書館における取り組み」のもう一つとして、学校図書館の図書や資料の蔵書の充実を図っており、成果指標を、「3-②学校図書館の蔵書率」としています。</p> <p>平成24年度の数値 74.9%に対し、現状値を上回って、90%台</p>
-----------------------	--

<p>事務局 (山本館長)</p>	<p>と高い数値で推移しており、評価5で「達成」としています。</p> <p>次に、3ページの、基本目標3の「子どもの読書活動の普及・啓発」では、</p> <p>「1 情報図書館における普及・啓発」の取り組みとして、読み聞かせ等による活動を通じて、子どもが読書の楽しさを知り、本に興味を持ち続けてもらうよう、おはなし会の普及を行っており、成果指標を、「1 図書館主催おはなし会等の開催回数」としています。</p> <p>平成24年度の数値 314回に対し、目標は取り組みの維持としていますが、現状値を上回っており、評価5で「達成」としています。</p> <p>このように、基本目標ごとの評価で、基本目標1「家庭、地域、学校を通じた子どもの読書活動の推進」では、成果指標2項目中、「未達成」(1)が1つ、「ある程度達成」(4)が1つとなっており、基本目標2「子どもの読書活動を推進するための環境の整備」では、成果指標5項目中、「達成」(5)が3つ、「ある程度達成」(4)が1つ、「未達成」(2)が1つとなっています。また、基本目標3「子どもの読書活動の普及・啓発」では、成果指標1項目で、「達成」(5)が1つとなっており、計画全体では、「達成」(5)が4項目(50%)、「ある程度達成」(4)が2項目(25%)、「未達成」(2)(1)が2項目(25%)となっています。</p> <p>これらのことから、次期に向けての課題としましては、報告書3ページの、最後の3行に記載してありますように、現計画の評価においては、家庭における読書活動の推進や学校等への支援について、一部目標値を未達成であり、改善策を検討する必要があるため、次期計画の策定に向けて、家庭、地域、学校等を通じた効果的な取組の推進に向けて検討を進める必要がある、と考えています。</p> <p>江別市子どもの読書活動推進計画の概要、及び進捗状況についての説明は、以上です。</p>
<p>議長</p>	<p>ただいまの事務局からの説明に、質問や確認したいことなどがあれば、ご発言願います。</p>
<p>多田委員</p>	<p>江別市子どもの読書活動推進計画(第2期)推進状況報告書の1ページ目で、「1 家庭における読書活動の推進」の成果指標の評価が「1」になっておりますが、子どもの数の減少が原因なののでしょうか。</p>
<p>事務局 (山本館長)</p>	<p>成果指標の1の評価が1になっているのは、なぜかというご質問ですが、けれども、記載にある「青空子どもの広場」という事業の開催に合わせて、実施していたものを集計していたというところでございます。</p> <p>実は、参加者の減少とともにこの「青空子どもの広場」が平成28年度で終了しております。この事業は平成24年度から平成26年度までは、年間で5つの会場で開催をしていましたが、平成27年度以降は会場も減少したということから、参加者の減少という影響を与えたと考えられま</p>

<p>事務局 (山本館長) 議長</p>	<p>す。</p> <p>いまのことについて、ご意見ございますか。</p>
<p>松山委員</p>	<p>子どもの数の減少ということなのですが、幼稚園に小さい時期から入るお子さんが増えていることが影響しているのではと思います。</p> <p>私は、情報図書館のおはなし会で読み聞かせをしているんですけども、以前はもっと幼稚園に入る年齢が遅かったなという印象です。4歳、5歳くらいで幼稚園に入ることが多かったと思うのですが、最近は3歳になると幼稚園に行かれます。この3歳から5歳という対象者が、減少しているということは、そういう事が原因なのではないかと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>他にいかがですか。</p>
<p>寺田委員</p>	<p>総合的な学習というものを導入してから、かなり時間が経過しているのではと思うのですが、自分たちが児童のときにはなかったものなので、市内では、例えばどのようなことをしているのか、お聞きしてもいいのでしょうか。</p>
<p>加藤議長</p>	<p>小中学校の総合的な学習の時間は、3年生以上の児童が取り組んでいく学習になります。学校によって、地域のこととか、環境問題のこととか、国際理解ですとか、それぞれの分野によってカリキュラムを作りながら取り組んでいます。</p> <p>多くは子どもが、自ら調べたりとか、まとめたりだとかをしていく学習なものですから、読書に絡めて学習をすることが多く、情報図書館との連携ということを各学校がおこなっています。</p> <p>こういった事業の中で資料の提供だとか、そのような図書館とのつながりが多くここにもありますが、司書の方々に連携してもらおうというのは、学校としてもあまり連携が取りづらいという面もあります。</p> <p>しかし、本を提供していただいたりだとか、調べるうえでの情報を提供していただいたりだとか、多く関わっていただけるのかなと、この結果をみて思っています。</p>
<p>寺田委員</p>	<p>レポートの提出をするのでしょうか。</p>
<p>議長</p>	<p>レポートというよりは、発表をするものを作るということで、その発表の仕方も、まとめ方も勉強の一つとして、紙に書いてまとめるだとか、パソコンを使ってまとめるだとか、まとめ方も学習するための内容としてございます。</p> <p>大学や高校でのレポートというものよりは手前の調べるとか、まとめるということを学習に繋がったものです。</p>

<p>多田委員</p>	<p>感想をいいますと、総合的な学習の時間の中で調べ学習をしておりますが、道内の市町村の特産物だとか、特徴を調べるだとか、課題を出されてそれを自分で調べてくるということになるのですが、今は、パソコンで調べるといことが、かなりウェイトを占めています。</p> <p>例えば道内の市町村の特徴を調べたいというところでは、その情報が学校図書館にそれがあるわけではないんです。</p> <p>学校図書館にある情報にはズレがあるということがあり、そのために派遣司書さんのサポートが非常に大事になってきて、それが保証されているときは、そういう取り組みも行き届いたものになっているな、という印象です。</p>
<p>議長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>他になにかご意見ご質問ございますでしょうか。</p>
<p>多田委員</p>	<p>2ページの一番下で成果指標3が平成28年度の数値が91.1%でしたけれども、このままだと100%に届くような感じです。</p> <p>5年間でこれだけ改善しているというのは、読書活動に対する環境が充実していきいているなという印象で、嬉しく思います。最新の数字はわかりますか。</p>
<p>事務局 (山本館長)</p>	<p>資料の方の最新の数値は、91.1%なんですけれども、平成29年度では94.5%ということでございます。</p>
<p>(伊藤次長)</p>	<p>補足いたします。</p> <p>今の91.1%というのは、各学校の蔵書率の平均です。実態を言うと学校によって、率が高い学校と低い学校がございますので、市内の20数校が9割前後の蔵書率というわけではないです。数字の表現で誤解を生むかと思うのです。</p> <p>蔵書率というのは、文科省の方で学級数に応じて理想の図書数が何冊という設定がされており、それを分母にして、各学校が実際に揃えている図書の数分子になって算出いたします。</p> <p>江別市内では、蔵書率を達成していない学校数が、達成している学校数よりも若干上回る形になりますので、その点は、全校で一律この割合ではないということをおさえていただければと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>その部分もご承知おきいただいた上で、江別市全体としては、状況は上向いてきているという理解でよろしいかと思ます。</p> <p>ほかに、よろしいでしょうか。</p>
<p>藤岡委員</p>	<p>これらの進捗状況について、道内の他の市町村に比べて江別市はどのような状況なのでしょう。</p>

藤岡委員	江別市の人口規模と同じような、北見市だとか小樽市と比較した場合どうなのでしょうか。国の指針とほぼ同じなのでしょうか。
事務局 (山本館長)	<p>図書の本数となると人口規模もあるかもしれませんが、各市町村の状況にはばらつきがあるので、比較は難しいのかなと思います。</p> <p>今は資料がございませんので、蔵書率のようなものは、全国的な数字がわかれば改めて次回にでもお知らせしたいと思います。</p>
(伊藤次長)	<p>補足いたします。</p> <p>蔵書率は全国的な統計がありますが、総合的な学習の対応件数ですとか、総合学習での貸し出し件数というものは、江別市独自に把握しているデータですので、他の市町村に同じようなものがあるのかは、わかりません。</p> <p>それ以外の拾える数値については、ただいま山本が申し上げたように次回、数字として揃えて参りたいと思います。</p>
議長	その他にございますか。
寺田委員	蔵書率が高い学校というのは、どのような特徴があるのでしょうか。
事務局 (山本館長)	学校が揃える図書になりますので、推測でしかないのですが、教育部全体の予算の関係もあると思いますので、一概に特徴を申し上げるのは難しいかと思います。
(伊藤次長)	<p>蔵書率の考え方からすると、学級数に応じて標準冊数が変わるので、毎年学級数が変わると分母が変わります。単純には比較ができないんですけども、学級が減ると分母となる冊数が落ちるものですから、分子が変わらなくても蔵書率が上がったように見えるんです。そういった数字上の見え方があるということが一つ。</p> <p>市はある程度の予算をつぎ込んでいるんですけども、学校の本で古くなって修復に堪えないだとか、読まれないだとか、改定されて見た目が綺麗なものに更新されたりすると、買った分だけ増えている他方、そういったものは廃棄して、実数は落ちてきますので、単純に予算をつぎ込んだだけ増えるという状況にはなかなかありません。</p> <p>そういったことから、蔵書率が低いとその学校が悪いというようには一概には言えない状況です。</p>
議長	そのほかにもございますでしょうか。
松山委員	2の情報図書館の学校等への支援の件で、平成26年度では2-①の対応件数が40件、2-②でも935冊なんですが、翌年には半減するような減り方をしたり、それから、貸出冊数も300冊程減少している理由は

松山委員	<p>なにかあったのでしょうか。</p>
事務局 (山本館長)	<p>対応件数の減少は、学校図書館の蔵書率の増加によって、整備が進んできて図書が充実してきて環境が整っていることから、情報図書館からの貸し出しが減ってきているのではないかということであります。</p>
議長	<p>学校の方は購入する際に分類の中で調べ学習にかかわるものを揃えていこうという動きはあるのかなと思います。</p> <p>他になにかありますでしょうか。</p> <p>ないようなので、江別市子どもの読書活動推進計画の進捗状況について、終わらせていただきます。</p> <p>次に、8その他、でありますか、委員の皆様からご発言ございますか。</p>
多田委員	<p>先ほど、持参いたしましたプリントをコピーしてお配りいただきました。「学校図書館図書整備等5ヶ年計画」というものが平成29年度から整備され、今回で第5次の計画となっております。</p> <p>今は図書館も調べ学習とかの利用に対応するような、「情報センター」とか「学習センター」というような役割を図書館に持たせましょうということで、文科省が力を入れています。</p> <p>この第5次計画の地方財政措置が3つありまして、まず、古くなった本を新しく買い替えましょうということ。第4次では、新しい本を買おうということでの措置でしたが、今回の計画は、古いものを買い替えるという考え方になります。</p> <p>また、新聞を学校に置きましょうということで財政措置が組まれました。こちらは時事的な問題について、総合的な学習だとか、社会的な関心を伸ばしましょうという配慮がされています。</p> <p>そして、私個人が重要だなと感じているのが、次の学校司書の配置にものごく予算を充てています。単年度で、約220億円です。</p> <p>前回の第4次では1年に150億円の予算をあてて、1週間に30時間勤務する職員を概ね2校に対して1人。司書を1週間で30時間配置できるだけの予算をあてていました。今回の第5次では約220億円ということで5校に3人の配置ができる予算規模になりました。</p> <p>このことは、学校図書館が生きるかという命綱を太くしているものだと思います。</p> <p>派遣司書さんが来た学校図書館は、すごくにぎやかになります。図書のレイアウトや飾りつけも綺麗で華やかになります。全体に温かみがでてきます。司書さんと会話したり、子どものコミュニケーションの相手にもなります。</p> <p>そういったことで、司書さんの影響というのはものすごく大きいものと感じています。文科省は、司書さんを配置して人がいる図書館にしましょうということ強く打ち出しています。</p> <p>この計画でも、22ページの上の写真に、私がぜひ実現して欲しいなと</p>

多田委員	<p>ということが載っています。「本市においても同様な事情があることから、これまでも学校司書は必要に応じて「指導」に関わり、多忙な司書教諭等をサポートしてきました。今後も司書教諭等と学校司書は常に連携をとりながら、多様な読書活動を企画・実施し、学校図書館サービスの改善・充実を図ることが望ましく、学校図書館の活性化や児童生徒にとって機能的に利用しやすい環境維持のため、年に1回は学校図書館へ支援できるような人員体制の検討を進めていきます。」というこれが、江別の第2期の計画の願いとして表現されています。実際のところは、人のやり繰りができないといったことがあるのでしょうか。</p> <p>第3期計画の内容には、文科省の新たな計画の神髄というものとなるので、この点をなんとか盛り込んで、現在の輪番制のペースを早めていくように、毎年1回は司書さんのサポートを受けられるようになればと思います。文科省の熱い予算付けを反映していただきたいと心から願います。</p>
松山委員	<p>市内には「子どもの文化ネットワーク江別」というものがございまして、毎年1度、小学校の図書館で読み聞かせをしているお母さんたちとの交流会を開催しています。その中で聞かれるのは、司書さんが来る前と、来て以降の図書館では、いきいきしている雰囲気が違うということです。</p> <p>2年に1度、3か月くらいの単位で、司書さんが巡回してくれていることで、皆さん、司書さんが来ることを期待しているとのこと。また、司書さんの担当を終えた後に、どうやってそのわかりやすいレイアウトの状況を維持していくかが課題です。</p> <p>司書教諭も、自分の授業が忙しく図書館運営に時間がさけないという現状があるようですので、江別市には学校図書館への司書派遣事業があるので、今よりも速いペースで司書さんが来てくれたらいいなと思います。</p>
多田委員	<p>意気込みはどうでしょうか。</p>
事務局 (山本館長)	<p>情報図書館司書を学校図書館に派遣するという事業に取り組んでいるところですが、なかなか人員の確保も難しいところもございます。</p> <p>ある一定の期間で司書を派遣するというだけでなく、要望に応じて適宜対応するというピンポイント事業というものも平成29年度から実施しております。</p> <p>それについて、今回策定する計画にどのように盛り込むかはこれからなんですけれども、今後、具体的にはどのように取り組むべきかが必要だということを課題として受け止めましたので、今後検討してまいりたいと思います。</p>
多田委員	<p>あと、学校図書データベース化が完成しましたよね。これはいいことで、その貸出等の作業が楽しいらしく、図書委員のなりたい子どもたちが増えているんですよ。</p> <p>また、図書の学年ごとの利用状況などが、簡単に集計されるので、そう</p>

多田委員	いったものも、成果指標のどこかに使っていただければと思います。
議長	そのほかご意見ありますか。 事務局からございますか。
事務局 (山本館長)	次回の開催であります、7月中旬ころを予定しております。 後ほど連絡させていただきたいと思います。 事務局からは以上でございます。
議長	それでは、以上をもちまして、第1回策定懇話会を閉会いたします。 本日はありがとうございました。
	【 閉 会 】